

＜今日の説教のポイント ルカによる福音書15章11～24節＞

聖書で出会う、私たちの予想をはるかに超えた、愛の神様。

① (11～16) こんな息子、いる？ あなたは弟？ それとも兄？

この弟を皆さんはどう思いますか？ 「ひどい」と思うなら、次に出て来る兄のタイプかも。「自分のようだ」と思うなら、弟のタイプか。いずれにせよ、イエス様は私たち皆のことを考えてこの話をされています。まずは弟タイプの人の辿る道を見てみましょう。

② (17～19) 弟は気づいた。何に？ そこから聞くべきこと。

聖書を読む時は、自分勝手に読むのではなく、それが何を言おうとしているのかを大事にしなければなりません。弟がはっと気づいたことが大事です。何に気づいたのか？ かつて当たり前だと思っていたこと（父の下で受けていた恵み）がそうではなかったこと、さらに、父親なら誰でも皆がそうなのでなく、この父親が特別に憐れみ深いことに、注目しなければなりません。

③ (20～24) こんな父親、いる？ 聖書の神様をここに見る！

そんな特別な父親に向かい直すこと、そこから始め直したことがこの弟の偉かった点です。そしてその父親の愛の深さは弟、そして私たちの予想を超えているものだったのです。父親が先に彼に気づき、彼に走り寄り、抱きしめたのです(20)！ 息子がしたことを思い出すより、彼が戻ってきたことに大喜びしたのです(22-24)！ 私たちは、この聖書を通して、このような神様がおられて「私の下に来なさい」と招いて下さっていることを、初めて、知るのです！

④ 全てを益と変えて下さる神様。この神様を信じて生きる平安。

私たちが、聖書を通して、私たちの予想をはるかに超えた神様の存在を信じるようになることは、もし神様がそのような方法を用いられたのなら、決して妙なことではありません。神様は、弟の悪しき企てやその結果訪れたどん底状態も、神様に出会うために必要な意味あるものに変えて下さる方なのです！（「心の時代」から）